

○ワークショップ 「観光経済学」

開催責任者 経営学部 赤壁 弘康
長谷川高則

2023 年 3 月 4 日・5 日
オンライン開催 (Zoom)

ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

日本観光学会中部支部会・観光経済経営研究会との合同開催とした。その意図は以下の 2 点である。

1. 報告者に対しては、観光分野に限定されない様々な研究分野の研究者からコメントを得ることによって、研究成果をさらにより良いものにする機会を提供することを目標とした。討議内容に記したとおり、この目的は達成された。
2. 参加者に対しては、観光経済学に関する幅広い研究成果を報告してもらい、参加者の研究意欲をより喚起することを目標とした。今年度も学部生・大学院生など若手研究者の研究報告が含まれたため、この目的は達成された。
3. 報告希望者には可能な限り報告機会を与えるようにした。前年度は希望多数のため報告希望をお断りせざるを得ないケースが発生したが、今年度は希望者全員に報告機会を提供できた。

目標が達成できなかった点・反省点は以下のとおりである。

4. 活発な質疑応答を促進する目的で、当初は対面式（ないしハイブリッド）研究会の実施を計画した。残念ながら、Covid-19 感染症拡大を回避するため、昨年度と同様今年度も Zoom ミーティングによる完全オンライン開催となり、所期の目的を達成できなかった。
5. こちらの設定ミスで 3 月 5 日分のミーティング ID が失効してしまい、報告者・参加者への新規ミーティング ID 連絡が直前になるなど混乱を生じさせた。
6. 体調不良のため、報告をキャンセルされた報告予定者がいた。最終報告予定であったため大きな混乱は生じなかったが、例年のことではあるものの、オンライン開催での研究会スケジュール作成・管理には苦勞が付きまとう。

◇報告者および題目

3月4日（土）

《セッション1》座長：南川和充（南山大学）

【報告1】井出明（金沢大学国際基幹教育院）

「パブリックヒストリーと観光」

【報告2】◎武中喜輝・崔明姫・洪澤博幸（豊橋技術科学大学大学院）

「コロナ禍における城崎温泉の観光関連事業所の影響に関する調査」

【報告3】佐藤政行（経済経営都市研究所）

「星野リゾートに関する研究報告」

《セッション2》座長：神頭広好（愛知大学）

【報告4】和栗隆史（大阪府立大学大学院経済学研究科博士課程）

「寺院宿坊にみる持続的な観光まちづくりにおけるエシカル・アントレプレナーシップに関する考察」

【報告5】小松大貴・◎大江靖雄（東京農業大学）

「長野県スキー客の決定要因分析—ダイナミック・パネル・データモデルを適用して—」

【報告6】◎二替大輔（大阪経済法科大学）・麻生憲一（帝京大学）

「混雑発生下での観光関連施設の最適な料金設定—品質による価格差別モデルの応用—」

3月5日

《セッション3》座長：田口順等（神戸学院大学）

【報告7】林涛（集美大学（中国））

「舟に関わる送り盆行事の観光利用—日中比較の視点から」

【報告8】麻生憲一（帝京大学）

「『道の駅』の防災拠点としての活用について」

【報告9】加藤淳一（久留米大学）

「『市場創造分析』を巡って」

《セッション4》座長：江口善章（兵庫県立大学）

【報告10】功刀祐之（京都産業大学）

「無電柱化による観光地整備に関する研究：愛媛県内子町を事例とした二段階二項 CVM による経済学的評価」

◇ワークショップの討論内容

・報告時間の管理と参加者からの質問を誘発する呼び水とするため、セッションごとに座長を置いた。座長はその役割を期待以上に果たされた。

- ・学部生・大学院生を含め多彩な報告内容・報告者を集めることができた。
- ・実務家ならびに法学や社会保障論を専門分野とする多士多彩な研究会参加者を迎えることができ、彼らを含め、参加者から活発な様々な視点からの質問があり、活発な質疑応答がなされた。
- ・報告者にとってはタイトなタイムスケジュールにもかかわらず、座長の進行のおかげもあり要領よく報告が行われ、大幅な時間超過はなかった。

◇研究成果発表

以下は 2022 年度までの継続ワークショップ参加者による既発表（過去 3 年間）研究成果である。

和栗隆史、「寺院宿坊を起点としたルーラル・ツーリズムに関する考察—アントレプレナーシップの視点から—」、日本観光学会誌（日本観光学会）第 63 号、2022 年 12 月。

宮川薫・大江靖雄、「農泊における OTA 利用者の評価分析」、日本観光学会誌（日本観光学会）第 63 号、2022 年 12 月。

渋谷博幸・岡本将佳、「熊本・大分地震の観光被害の空間経済効果に関する研究」、日本観光学会誌（日本観光学会）第 62 号、2021 年 12 月。

倉本啓之・井出明、「ご当地グルメを用いた観光経済の実態測定について—能登井による COVID-19 後の能登観光を対象に一」、日本観光学会誌（日本観光学会）第 62 号、2021 年 12 月。

赤壁弘康・竹澤直哉、「コロナ禍後の人口減少観光地を対象とした観光サービス利用制限政策のリアルオプション的評価」、リアルオプション研究（日本リアルオプション学会）、2021 年 12 月。

張茜・麻生憲一、「地方鉄道における観光列車の現状と課題に関する一考察」、日本観光学会誌（日本観光学会）第 61 号、2020 年 12 月。

林涛、「途上国観光客への日本観光業者のまなざし変化—名古屋城を事例として—」、日本観光学会誌（日本観光学会）第 61 号、2020 年 12 月。